

第1回 「遠隔診療」を始めます！

情報社会にあって、病気への知識や情報は、ネット検索すればいくらでも入手できるし、医療系のテレビ番組もファンは多い。ただ、これらの情報はネガティブに受け取られやすい。情報が“文字どおり”に受け取られ、不安と心配の虜になる。

「こんな症状や兆候があると、こんな恐ろしい病気の可能性があって最悪の場合…」。こんな調子で紹介しているものだから、ちょっとでも当てはまると気分が良い訳はない。でもこの時にどう反応するかが、その人の将来(=病気に成り易いか)を占うのである。該当する症状や兆候が存在した場合の適切な反応は、必要以上に“盛り上がる”ことなく、後日医療機関で診察や検査を受けるといったものだ。中道の精神で、恐れず、侮らず、焦らず、遅れず。

けれど、情報を知って「不安の壺」に入ってしまう人たちは、医学的な基礎知識もないのに、それがメディアから発せられているだけで一般常識と錯覚する。哲学者・ジェームズ・アレンは「心の中でめぐらされている思いは、それが良いものでも

悪いものでも、内容に応じた結果を肉体内で確実に発生させているのです。病気を恐れながら生きている人たちは、やがてそれを実際に手にする人たちです」と言う。

僕は「不安の壺」に入っている患者さんお一人お一人に、壺から出て来られるよう導いていきたいという思いで診療をしている。何故なら、「不安の壺」に入っている限りは決して病気は真に治ることはなく、連鎖的に新しい病気を引き起こすから。アレンの言う通りなのだ。

時に優しく、時に厳しく。幾度も泣かれ、怒らせたり…。でも診察室だけでは時間が足りない。このコラムを読んだ方が、一人でも“壺の外の光”を感じて頂けたらと思う。さあ、診察室を飛び出して、僕なりの遠隔診療を始めよう！

医学博士のメデイカル・コラム
病気が教えてくれるもの

医学博士 木村謙介

北海道大学医学部卒。慶應義塾大学医学部循環器内科専任講師などを歴任。

米カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部留学、最先端の基礎医学と豊富な臨床経験を持つ。「大きな病気を発症する前にその芽を摘み取る方が医療レベルは高いはず」の信念で2012年、きむら内科クリニックを開設。



きむら内科クリニック TEL 044(981)6617

麻生区片平5-24-15

きむら内科クリニック 麻生区

検索